

2021年3月期第2四半期決算説明会における主な質疑応答内容の要旨

この質疑応答集は、2020年11月11日（水）に行われたアナリスト・機関投資家向けテレフォンカンファレンスにて、ご参加の皆様から頂いた主なご質問をカテゴリー別にまとめたものです。

理解促進のため一部内容の加筆修正を行っております。

Q：新型コロナウイルスによる顧客の状況と将来の見通しを教えてください。

A：【国内の状況】

主要ユーザーである外食、中食（CVS）は、7月・8月に新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の拡大第二波の影響を受けました。一方、9月から大型企画の取り込みによりCVSは堅調に推移、主要外食チェーンは苦戦していた都心部の来店者数もどおり、10月単月を見ると前年比プラスに転じております。上期不調だった外食はテイクアウトやゴーストレストランなどの業態転換に、CVSは住宅街の買い需要への対応に取り組んでおり、各社のコロナ対策が明確になったことで対面営業も可能となり、共同開発への積極的な取り組みなど、守りから攻めに転じる機会が来たと感じています。

【海外の状況】

中国は3月からコロナの影響が顕著となり、売上げは急激に減少しましたが、4月以降は回復基調となり、現在もその傾向は続いています。台湾は国をあげてのコロナ拡大防止策、経済対策が早かった関係でコロナの影響は軽微にとどまっております。インドネシアは国内需要も増えています。

欧州では、フランスのフードサービスを扱う問屋が同国のロックダウンを背景に影響を受けましたが、家庭用調味料は影響が小さく、欧州全体では好調を維持しています。

Q：新規事業の取り組み強化について具体的に教えてください。

A：①植物性たんぱく、大豆を使った商品（調味料）の製造。高たんぱく低脂肪の、健康志向を踏まえた植物蛋白を使った調味料を開発中です。

②アリアケの強みの一つであるアリアケファームでの野菜の活用、農地の一部をオーガニックに転用拡大する計画もあります。健康と野菜を結び付けるビジネスは今後の核となると期待しています。

③大手コンビニとの共同事業によるチルドカップスープの販売。コロナ渦の新しい生活様式にマッチしたワンハンド、ポータビリティが重要なキーワードであります。

【海外での取り組み】

①フランスの有名シェフとの共同開発により、新たにフランス国内スーパーへの家庭用スープの販売を計画しています。

②フランスでの設備投資、スプレードライヤーが2021年後半から2022年前半稼働の予定です。

以上